2020年 1月 12日 《聖餐式•成人者祝福式》

## 主日礼拝

1)8時半

②10 時半

③19時

司 会

①石井師

②石井 秀人兄

③石井師

奏 楽

祈 祷

①石井師

②松岡 清枝姉

③石井師

賛 美

聖歌232番 & ~イエスは愛で満たす~

十 戒

聖書

①詩篇34篇1~10節

②テサロニケ人への第二の手紙2章13~17節

特別賛美

ソウルマティックス

メッセージ

①「大冒険を楽しむ人牛」大川従道牧師

②「さあひっくり返そう!」石井 潤牧師

聖 餐 式

賛美「主イエスの十字架の血で」

金 猫

聖歌229番 「おどろくばかりの」

祝祷

〔献金当番:渡辺姉・青木姉〕 【**司会者**】

お知らせ **替** 美

~見つめ続けます~

## <u>礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!</u> 《今週のお知らせ》

- 1. 明日は成人の日。成人者の皆様おめでとうございます!祝福を祈ります!
- 2. 本日昼食後 1 時~、執事会を行います。2020年の教会行事予定について。
- 3. 今週の祈祷会は、☆早天祈祷会:明朝6時。☆木曜祈祷会:①10時半~、 219時半~、メッセージは、柴田順一牧師。☆準備祈祷会:土曜夜8時。
- 4. 木曜午後2時~、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。
- 5. 来週は「ファミリーの日」のため昼食、午後のプログラムはありません。

1/23(木):WOGA(ボーマン·ルリ子先生) 25(土):千曲市バイブルスタディ 26(日):聖歌隊 27(月):長野家庭集会

一年に一回聖書を完読できる! <i>Bible Reading Plan</i> 〔1/12一/19〕								
Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	創世記 31•32章	33- 35章	36• 37章	38- 40章	41· 42章	43· 44章	45- 47章	48- 50章
チェック	00	80	00	00	00	00	00	00

## 「さあひっくり返そう!」

~私たちの歩みが強められるために…~

「だから、教会のみんな。強く立ち、私たちがそちらに滞在したときに教え、さらには手紙でも伝えた真理を信じ続けるのだ。どうか、私たちを愛し、永遠の安らぎと希望を与えてくれた我らの王イエス・救世主と父なる神が、あらゆる励ましをもって、みんなの良いことばと働きを勇気づけ、カづけてくれるように。」 2テサロニケ2章15-17節 [ALIVE訳]

「わたしは、私」。昨年までの西武・そごうのCMが、今年は「さあひっくり返そう!」という幕内力士の炎鵬(168cm)を用いて、見事なCMを作り話題となっています。発想の転換が重要であるということです。CMを作る専門家の方々はどうにかして人々の心にヒットするキャッチコピーを見つけるために必死になって研究しておられます。その結集とも言える内容なのかもしれません。

しかし、CMではなく、実際に人々をその言葉を持って励まし続けたパウロのことばは物凄いものだと思います。「わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負うている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。2コリ4:8-10」。私たちはCMでは力は与えられません。なぜなら、そこには命の通ったエネルギーがないからです。しかし、聖書のみことばは、生きた御霊が働いて直接的に主イエス様からの力が流れるから本当の力が与えられます。しかし、聖書のみことばも独りよがりで読んでしまうと、御霊が働かないので、本当の力として与えられません。教会という関係の中で、権威の中で与えられることで真実の力として与えられるのです。

今朝の第二テサロニケ2章の前半には「反キリストの出現」について具体的に書かれています。それは終末についてです。今までも、「反キリスト的」な人々は現れました(ネロ皇帝やヒトラーなど)が、ここに書かれてある人物は、そんな比較にならないような大変な人物が現れるということです。そのしるしとして、エルサレムに神殿が建ち、そこに立ち、「自分は神だ!」と宣言する人が現れる。その時から、終末の時計が周り初め、7年の最後の時があって、世界の終わりがやってくるということです。しかし、その前には教会は天に引き上げられ(携挙)て主と共に生きるようになります。ですから、今はそのときではないということです。しかし、その時はいつ来てもおかしくない末の世であるということを自覚していなければならないことも事実です。だから、私たちは宣教しなければならないのです。

今は、いたずらに恐れ、不安になることなく、しっかりと目を覚まして祈り、主に従うこと、そして、互いに励まし合うことが必要です。信仰を確かなものにしていく必要を感じます。